

見附市教育センターだより



〒954-0052

見附市学校町 2 - 7 - 9

電話/Fax 0258-62-2343

E-mail mrisen@mitsuke-ngt.ed.jp

令和4年2月22日 NO.11

名木野小学校5年生

「さいの神」



ある日の授業から

教育センター運営委員（西中学校教頭）田中 綾子

「日本語って難しいですね」

授業の振り返りシートにちよくちよく生徒が書いてくる言葉。特に言葉の学習、いわゆる文法の授業後のコメントによく見られます。

つい最近も曖昧な文、分かりづらい文について学習したところでした。

例 彼は嬉しそうに話をする友達を眺めていた。
A 彼は、嬉しそうに話をする友達を眺めていた。
B 彼は、話をする友達を嬉しそうに眺めていた。

伝える側は、言いたいことがはっきりしているのだから、一つの意味しか頭にないでしょう。しかし、受け取る側は、必ずしも伝える側が、イメージしたとおりの受け取りをするとは限りません。もしくは、複数の意味に取れることに気づき、混乱するかもしれません。

だからこそ、私は最初の授業で子供たちに「話す・聞く・読む・書くことにさほど困っていない私たちが言葉の学習をする意味って何だと思う？」と問います。

子供たちには、言葉を通じて自分の思いをきちんと伝えられる人であってほしいと考えるからです。

ただ、言葉は生き物です。日々、変化し続けています。間違った意味がそのまま定着してしまったもの、これまでは存在していなかったのに流行から新しくつくられたものなど、どんどん形を変え、進化していく生き物を私たちはうまく使いこなしていかなければなりません。さらに言えば、ときとして言葉に表されていないことまでを感じ取るよう迫られることもあります。いわゆる「行間を読む」がそれです。

誰かが発した言葉を、別の誰かが同じように口にしても、伝わり方は変わってくるかもしれません。言葉には、発する人の中身まで映し出してしまう怖さがあります。言葉や表現は難しく面倒なことも多いですが、実に豊かでおもしろいです。子供たちにもそのことをきちんと伝えていきたいと思っています。

表紙写真に寄せて 『伝統的な見附の行事』に思う

◇巻頭写真は、名木野小学校で行われた無病息災や五穀豊穰を祈る小正月行事「さいの神」(1/14 実施)です。新潟日報や広報みつけなどでも紹介されましたので、見られた人も多いと思います。昨秋、師がくで訪れた小春日和の昼休み、外で遊ぶ子どもたちを見つけて、中庭口から外へ出ようとしたら、大量の藁があり驚きました。K 管理員さんが「5年生が米作りの勉強で藁も使いたいと、さいの神に使うものです。地域の方が一生懸命で縄を編んで『ちぐら』も作ってくれた」と、教えてくれました。子どもたちは縄作りも体験をし、その縄で地域の皆さんと、大きなさいの神を竹の骨組みに組み、習字が上手くなるように書初めの紙も一緒に燃やしました。その後、竹竿に付けたすめを焼いて(上写真)食べました。同じように、さいの神(1/20 実施)を行った今町小学校の5年生は、餅を焼いて食べて健康を祈ったそうです。



◇右写真は、同じく五穀豊穰を願う小正月の「繭玉飾り」です。今年も伝承館の入口に一月末まで飾られていました。繭玉はミズキの枝に団子を付け、米の粉で作られた小判や鯛などの縁起物をさげたもので、元来、蚕が作る繭は豊作の象徴とされ、養蚕が盛んだった地域で、繭に見立てた飾りを付けたことから繭玉飾りと呼ばれました。2月に入り、節分に「豆まきや恵方巻」の行事がありました。豆まきはコロナ対応の生活の中では、出来なかったのではないのでしょうか。恵方巻は元々関西の行事であったものが、日本中のスーパーやコンビニなどで販売をされ広がりました。皆さんは恵方巻を食べる意味や理由を知っていますか。太巻きを食べるだけでなく、それを知って食べると味が一味も二味も違うかも知れません。



◇2月25日は「天神講」です。天神講とは、子どもの健やかな成長と学業成就を願う行事です。学問の神様に由来する伝統行事で、菅原道真公の命日にあたるこの日、床の間に天神様の掛け軸や置物を飾り、お供え物をします。右写真は、今町土人形の天神様(道真公)で、今町小学校の教務室前の和室に飾られているものです。立派な天神様です。ぜひ、多くの人に見て頂きたいです。伝統的な行事が年々減ってきて寂しいです。さいの神など地域で行われてきた行事は、先人から受け継いできた大切なものです。いつまでも続いてほしいです。



コラム — 次は助ける。僕の番だ —

◇1月1日(元日)の新潟日報1面に、見附市の高校生Hさんが載っていました。この記事は三条市出身の「笑顔写真家」加藤雄一さんを取り上げたものでしたが、加藤さんとともに素晴らしい笑顔のHさんが写って(撮影場所：田井小学校の教室)いました。記事は社会面に続き、表題の「次は助ける。僕の番だ」の見出しで、Hさんが6年前に血液の病気で、新潟大学病院に入院をしたこと。その時にクラスメートたちとの交換日記が支えだったこと。お母さんがずっと隣にいてくれたこと。加藤雄一さんとの出会いで前を向く力が湧いたこと。小学6年生の7月に症状が消え退院をし、クラスメートと一緒にいられて嬉しかったことなどが紹介されていました。記事を読みながら、私はHさんを思い出しました。◇師がく訪問で、この年の7月に田井小学校の6年生の授業参観をしました。子どもたちは明るくて、担任のF先生と学ぶことが、楽しいが伝わる良い授業でした。ここに笑顔のHさんもいました。このHさんが今、新潟市の高校の理数科で学び、自分の経験から難病に苦しむ人たちのために「将来は薬学部に進み、副作用の少ない新薬の研究をしたい」と夢が書かれていました。前向きに生きるHさんに感動をし、大きな元気を頂きました。(こ)

<4時から夢塾> 「今町の戦い」を通して

第13回4時から夢塾は1月20日(木)、今町中学校の大滝雅門校長先生から「戊辰戦争今町の戦い」を通して『今町の歴史』を教えてくださいました。

1 はじめに 舟運で栄えた「今町」

○刈谷田川・川の流れは江戸末期の頃は、大きく蛇行をし、その東側が今町、西側が中之島に分かれていた。当時、大量の荷物は水路で運んでいた。今町は新発田藩の領地で、中之島や蒲原平野の米と麻の集積や輸送の中心地として栄えた。

○川戸(舟着き場)・川港のこと。幕末、今町に川戸が13カ所あり、刈谷田川が繁栄をもたらした。

○1665年に新発田藩による*町建てが行われた。

*町建てとは都市計画に基づいて町が建設されること。現在も、武者隠しという家が前後にずれて作られた城下町のたたずまいが残っている。

2 北越戊辰戦争(1868-1869年) 旧幕府(長岡藩)軍と新政府軍の戦い

○小千谷談判5月2日(慈眼寺での長岡藩家老・河井継之助と新政府軍軍艦・岩村精一郎の会談)
・河井は礼を尽くし陳情嘆願をしたが会談は決裂し、戊辰戦争最大の激戦、北越戊辰戦争が始まる。
・5月19日の長岡城の落城後、新政府軍は見附、今町に侵入をした。

3 今町の戦い (パティオにいがた展示のジオラマ写真、「今町と戊辰戦争図」で概要説明あり)

○5月28日に新政府軍は今町に入り、永閑寺を本陣。永閑寺を薩摩藩、新田名主邸(現在の柳屋)を長州藩、渋谷邸(現在の渋谷薬局)を尾張藩の宿にし、食料・金品・人足を今町の人に提供させた。

○6月2日、河井継之助(長岡藩)の攻撃で、新政府軍は劣勢を強いられ、今町から見附町に敗走する。

・坂井口の戦い・長岡藩側が坂井方面から今町を大砲や銃で攻撃。米山塔に銃弾痕が残っている。

・安田口・源助坂の戦い・今町の戦いで最大の激戦地。河井軍は洪水で堤防が決壊した道なき道を進軍し、尾張藩と午後1時頃激突し夕刻迄攻防。源助坂は刈谷田川堤防への坂で攻撃の重要地点。

○この戦いで、長岡藩側は新政府軍の宿舎を中心に火を放ったため、今町の大部分が焦土と化した。長州藩宿舎新田邸で唯一焼け残ったのは土蔵の扉だけだった。扉は現在、柳屋に保存されている。

4 まとめとして 今町大橋から中之島大橋へ ・河井継之助の正しい評価

○2004年の7.13水害は刈谷田川の蛇行が原因とされ、今町大橋は取り壊されたが、1647年の新発田藩絵図に描かれている。今町は新発田藩領中之島組だったため、早期にこの橋が架けられた。

○河井継之助を書いた司馬遼太郎の『峠』が来年、映画が公開される。今町を焼野原にした人との評価の河井は、武装中立を目指し、民の暮らしを守るために尽力した人である。映画を見たい。



参加者の声 ・私の中で、今町と戊辰戦争は繋がっていなかった。お話を聞き、長岡駅(長岡城)→八丁沖→見附(今町)・私の中で、幕末(戊辰戦争)が一気に広がった。

- ・地域のことを学んで、地域のことが好きになり、その「地域の教師」になっていくのだという、いい学びの姿を見せてもらった。資料も分かり易く、大滝先生の温かな人柄が伝わる話だった。
- ・写真と地図で、現在と過去をうまく繋ぎながら説明して頂いた。立体的に学べて分かり易かった。
- ・教師として勤務する学区をよく理解し、地域のことを大切にすることの素晴らしさを感じた。
- ・昔から住む人から学ぶことの大切さを感じた。赴任地を好きになることが大事なんだと思った。
- ・子ども、保護者を理解・支援するには、歴史・文化・自然を学ばなければならないと痛感した。

<4時から夢塾>「人と出会い『縁』が繋がった」

第14回「4時から夢塾」は2月8日（火）、見附小学校の松井謙太校長先生から「安全教育と私」をテーマにして、ZOOMで指導を頂いた。



1 防災 ～二つの地震から学んだことを伝えたい～

① 勤務校(小千谷小)で中越地震を体験した。その時の苦勞を伝えたい。

- ・職員・家庭の被災。家族の不安。地域住民としての働き。避難所から出勤…「一斉年休事件」軽重を付けて仕事分担。現状と今後について一斉伝達。情報の共有化と個人情報の一元管理。
- ・子ども・不安からPTSD。登校再開後は安全から安心へ。具体的にどうすればよいのかの指導。
- ・避難所・避難所は市職員が運営。毎日交通安全指導で挨拶する。毎日集団下校に職員引率をする。⇒「信頼」と「安全」が全ての教育活動の基盤である。
- ・学校・学校の復旧。学校生活の安全確保。教育課程の再編成・カレンダーづくりと全職員の納得。
- ・三つを守る・「子どもを守る」「学校を守る」「職員を守る」の中で、職員を守る意識が弱かった。
- ・つながり感・感謝・思いやり＋率直な話し合い⇒つながり感(職員間・学校外。有事・平時での)

② 柏崎刈羽原発の隣接地域の柏崎・日吉小で中越沖地震を体験した。

- ・校地内に放射線監視施設土合局。校長室にヨウ素剤保管庫あり。校区は地盤が弱く河川改修中。
- ・インフラは全てダメ。校地校舎の安全確保で登校再開。発生二時間で210名全員の安否確認終了。
- ・対策の視点・情報の共有。見通しをもつ(職員へ諮問⇒提案)。柔軟性(小スパンで校務分掌変更)。

2 人と出会い、『縁』が繋がる ～出会った人々との縁やつながりを大切にしてきた～

- ・日吉小学校での地震対応について、2008年1月大阪府八尾市で発表した。以来、27回の「講演・発表」、学校安全関係の「執筆」を数多く行ってきた。また、文部科学省の学校安全資料作成会議委員や日本安全教育学会理事など多くの「委員」も務めてきた。これらの仕事がライフワークに。何か自分にできることはないのか。→求められることが嬉しかった。
- ・常にスイスチーズモデルを頭におき、リスクマネジメントとクライシスマネジメントをすること。

3 最後に ～「災害への備え」の心構え～

- ・自分の命は自分で守る。・地域を好きになり役割を果たせ。・率先避難者になれ。・想定にとらわれるな。・最善を尽くせ 自然をなめない。99回の警報で1回もこない→100回目の警報も逃げる。⇒このことを学校に当てはめれば、・自分の仕事は自分でしろ。・学校を好きになり役割果たせ。率先して業務を進めろ。想定にとらわれるな。最善を尽くせ 親と子をなめるな。・頑張りましょう。



- 参加者の声** ・二度の地震を経験されたお話には説得力があり、その場面で、その先を見通していくつかの選択肢を用意しておくことが大事で、子どもへの指導や保護者対応に通じると感じた。
- ・体験に基づく危機管理の考え方に感銘を受けた。また災害はいつ起こるか分からないと実感した。
 - ・様々な判断が求められる学校で、どんな基準で自分が行動をすればよいか考える機会になった。
 - ・いざという時を想定しておきたい。「率先避難者たれ・率先して業務を進めろ」を心に留めたい。
 - ・繋がりをつくる、人を大切にするなどマネジメントの根幹に係わることの大切さを再認識した。
 - ・学校は地域とつながりをしっかりとしていくことを、私も日頃から心がけていきたいと思った。
 - ・「求められていること」と「やりたいこと」のズレを、自分にも当てはめて考えてみたいと思う。
 - ・「やってよかった」と思える防災教育や避難訓練をやろうという空気を、職員室に吹かせたい。
 - ・コロナウイルス感染症が収まらない状況の中で、オンライン研修は大変にありがたかった。

2月

科学教育部



《今月の1枚》

春を待つ/メイヨシノの冬芽

【事業アンケートのご協力ありがとうございました】

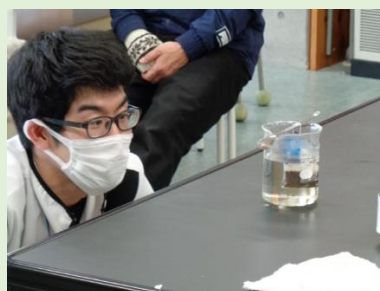
科学教育部の事業アンケートにご協力いただきありがとうございました。先生方から回答いただいた内容を今後の研修等に生かしていきます。

アンケートの内容から研修会への参加以外にも「教育センターだより」、「e-fileのワークシート等」をよく活用していただいていることがわかりました。ありがとうございます。今後も準備の負担が少しでも減ることや、単元の指導の見通しが立つなど、先生方に時間的・心理的な余裕が生まれるセンター運営を目指していきたいと思います。

<基礎技能研修会～若手の先生との学びを共に～>

初任者の先生方のいる学校に訪問させていただいて、「基礎技能研修会」を実施しています。子どもたちが理科の授業で「すごい!」「不思議!」「どうしてだろう?」といったわくわくしたり、疑問をもったりする気持ちを体験してもらえるような内容を目指しています。子どもたちのパワーは大きいもので、わくわくを感じれば主体的に探究していきます。それには教材や単元の見せ方（魅せ方とも置き換えられます）が何より大切です。まずは指導する私たちからわくわくするような授業を目指していけたらと思います。

来年度以降も継続して研修を行いますし、要請していただければどの学校でも実施いたします。ぜひ一緒に理科でわくわくしてみませんか?連絡をお待ちしています。



【Question!】 レモンティーの色が黄色なのはなぜでしょう?

この問題に正解できた初任者の先生もいらっしゃいました。素晴らしいです。正解はテアフラビンという紅茶の色素にレモンの酸性が反応して黄色くなります。アルカリ性では黒っぽくなります。ちなみによくはちみつを紅茶に入れる方もいますが、はちみつでも黒くなります。これはアルカリ性なのではなく、紅茶に含まれるタンニンがはちみつに含まれる鉄分と反応するためです。日常の中にもわくわくすることは潜んでいます。



科学の公園

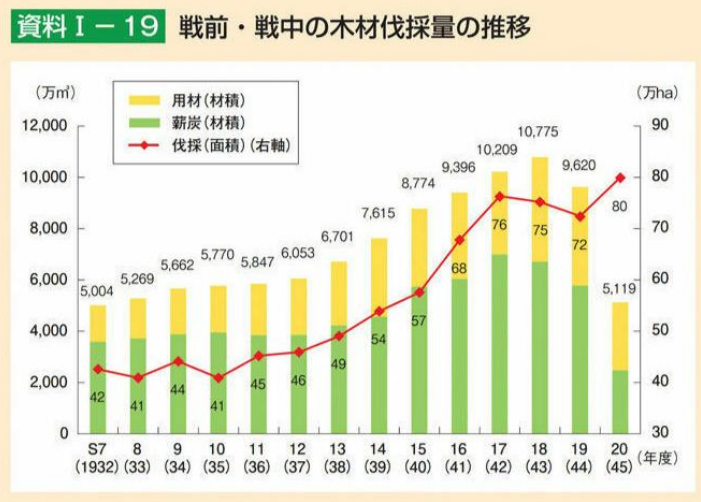
【日本人の国民病～花粉症はなぜ多い?～】

まだまだコロナウイルス感染症が収束する気配が見えてきません。オミクロン株に置き換わり、感染症拡大も加速しました。数が増え、また重症化しにくいために「みなし陽性」ということも出てきており、風邪との違いを区別することも難しくあります。これからの時期には、花粉症の症状もオミクロン株に類似しており、混乱が懸念されます。もうすでに花粉の飛散が活発化してきている都市圏では、オミクロン株なのではと心配する花粉症の症状の方が医療機関に来院することが増えているようです。



引用：【2022年版】スギ・ヒノキ花粉飛散量予想と対策…去年との比較も
(All About 健康・医療)

日本では花粉症を含むアレルギー性鼻炎の有病率はおよそ2人に1人になっているそうです。国民病と言われるのも頷ける数字です。この季節に多いのはスギ・ヒノキ花粉です。一昔前はスギ花粉の花粉症はほとんどありませんでした。1970年以降から増えてきていると報告されています。世界大戦で軍事需要として、その後戦後復興でも多くの木造住宅が建築されることで、日本の山から木材が大量に使用されました。それにより各地で甚大な自然災害をもたらすようになりました。その後、政府の支援もあり、大量の植林としてスギ・ヒノキが植えられました。そのスギが開花適齢期を迎えつつも、今は山々もあまり整備されなくなっている現状もあり、花粉飛散量が増加しています。そして車や工場の排ガスがスギ花粉と結びつき、体内でより過剰な反応を起こしています。春先の黄砂が飛ぶ際に、花粉症がひどくなるのも同じ影響だと考えられています。また、食環境が欧米化したことも関係しているといわれています。



引用：林野庁「林業統計要覧」

これからの時期、もちろんコロナウイルス感染症の予防を継続するとともに、花粉症にも気をつける必要があります。生活リズムを整え、花粉を室内に持ち込まないなど接触の機会を減らすことが重要です。こうして考えると、見えないウイルス、見えにくい花粉とのたたかい方は似ています。見えない、見えにくいからこそ正しい知識と、そして何より自身の免疫力が大切です。私たちも正しい知識で、コロナウイルス感染症の拡大を防止し、それに負けない自身の免疫力を高めたいものです。コロナウイルスにも、花粉症にも負けない私たちでありたいものです。